

アナログアキュライザーの導入(28)

—適用箇所の検討(24)—

1. 始めに

前報(27)に引き続き、Garrad 401 のフォノステージの機器構成を替えてアナログアキュライザーの効果を確認します。

2. アナログアキュライザーの試聴方法

アナログアキュライザーAACU-1000 を Garrad 401 のアナログ再生に適用します。

前報(27)の再生経路は次のとおりでした。

Ortofon SPU Royal N/FR64s/Garrad 401→【Phono】→Byer マイクトランス
→【RCA】→iPhono L/R2 台独立使用→【RCA】→P&G フェーダー→【RCA】
→しなの音蔵 300B シングル

今回、アナログアキュライザーAACU-1000 はフォノイコの iPhono の入力側と出力側に入れてみます。

Byer マイクトランス→AACU-1000→iPhono L/R2 台独立使用

→P&G フェーダー



Byer マイクトランス→iPhono L/R2 台独立使用→AACU-1000→

→P&G フェーダー



上掲の写真では、装着状態を示すために、機器を覆っている Quantum Damping を外しています。

音源は、アナログ盤で [Garrad 401 の再構成の確認](#) に使用してきたものです。

3. アナログアキュライザーの試聴結果

上記再生経路において、AACU-1000 有無での音質を確認します。

今回は、記憶が薄れないよう、前報(27)のトランスの出力端子への装着に引き続いて実施しました。

その結果、フォノイコの iPhono の入力端子への装着では、装着箇所が RCA ケーブルの前後ということになり、前報(27)のトランスの出力端子への装着とほとんど変わりません。

フォノイコの iPhono の出力端子への装着では、iPhono の入力端子への装着に比べて躍動感はありますが、若干肌理が粗くなり、エッジが立ってきます。その結果、カンターテドミノの合唱の濁りの低減やミトマニアの古楽器の質感表現が若干苦しくなります。

4. まとめ

AACU-1000 を iPhono の入力端子と出力端子に装着する効果を認めましたが、微妙な表現力の向上の点では、入力端子に装着する方が魅力的です。

以上